

底生生物「ゴカイ」の多様性 ー未来を守る分類学ー

上石 健太郎

北海道大学 大学院理学院

自然史科学専攻 多様性生物学講座



未来社会のあるべきかたち

- ◆生態系の基盤となる底生生物の多様性を知る
- ◆人知れず絶滅していく生物を減らす
- ◆豊かな自然を引き継ぐ

ゴカイとは

- ・環形動物門（ミミズやヒルと同じグループ）
- ・世界中に約14,000種
- ・砂に潜る種、管状の巣を作る種、泳ぎ回る種…など

見た目も生活様式も様々
海の生態系で重要なグループ



名前のない種が多くいる

- ・名前のついていない種(未記載種)は5000種以上いる予想
- ・誰にも知られないまま絶滅する種も

目的

分類学的研究を通して、真の多様性を明らかにする

分類学的研究

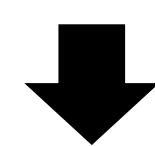
- ①採集した標本を詳しく観察してデータをまとめる
(実体顕微鏡、光学顕微鏡、走査型電子顕微鏡…など)
- ②DNAを抽出して、塩基の配列を解読する

既に知られている種と①形態、②DNAの塩基配列を比較し、未記載種かどうか、知られていなかった情報はないか検証

分類学が自然を守る

- ・ゴカイを含む底生生物は水圏の生態系の基盤となる
- 世間の関心は薄く、多数の未記載種が存在

- ・自然を守るためにはどんな生物がいるのか知ることから
- ・多様性を明らかにして、多くの生物を未来へ残す



「分類学」が貢献

分類学的研究の流れ

